



## 何歳からが、「成人」?

昨日の「成人の日」に合わせ、連休中には各地で成人式が行われました。ここ三豊市でも、13日にマリンウェーブで実施されました。

ところで、2022年から民法改正により、成人年齢が18歳に引き下げられるのを知っていますか。それに伴い、成人式の実施年齢についても議論があります。

日本財団が全国の17歳から19歳の男女800人に、「何歳で成人式を行うのがふさわしいか」尋ねたところ、「20歳」が74%、「18歳」は24%で、これまで通りの「20歳」が圧倒的に多い結果でした。その理由は、

- ・「18歳」だと受験に重なる時期だから
- ・成人式に合わせてお酒を飲んだりタバコを吸ったりできないから

等が多かったようです。

私は毎年この時期になると、右の詩を思い出し、成人するとはどういうことか考えさせられます。そして、成人式を迎えたからといって大人になれるわけではなく、成人（人に成ること）への道は何歳になっても終わることがないと、改めて気付かされるのです。

成人とは人に成ること もしそうなら  
私たちはみな日々成人の日を生活している

(中略)

どんな美しい記念の晴着も  
どんな華やかなお祝いの花束も  
それだけではきみをおとなにはしてくれない

他人のうちに自分と同じ美しさをみとめ  
自分のうちに他人と同じ醜さをみとめ  
でき上がったどんな権威にもしばられず  
流れ動く多数の意見にまどわされず  
とらわれぬ子どもの魂で  
いまあるものを組み直しつくりかえる  
それこそがおとなの始まり

永遠に終わらないおとなへの出発点

(谷川俊太郎「成人の日に」より抜粋)

詩人の言葉を借りれば、まだ中学生の皆さんも、〇年前に成人式を終えた私も、日々「成人の日を生活している」のかも知れません。

さて、西日本豪雨や東日本大震災の被災地でも、成人式が行われました。左の新聞記事は、震災当時小学6年だった若者が、「亡き友の分まで強く生きる」と誓った、宮城県石巻市の成人式の様子です。

当時の6年生21人のうち、災禍を逃れて生き延びたのは計5人。その一人、永沼さんは、「みんなが生きていたら、どんな大人になっていたんだろう」と思いをはせながら、「逆境に負けない強さを身につけ、みんなの分も、悔いのないように生きていきたい」と語っています。

また、西日本豪雨で甚大な被害が出た岡山県倉敷市や愛媛県大洲市の成人式でも、復興への決意やボランティアの方への感謝の声相次ぎ、力強さを感じます。

皆さんも数年後に成人式を控えた今、自分なりの大人への道を、焦らず、着実に歩んでほしいと願っています。

◀読売新聞(2019.1.14)より

### 被災地で成人式

東日本大震災で被災した東北の各地で14日、成人式が行われた。震災から10年がたつ8年。当時小学6年だった若者たちは、復興事業がなお遅く古里で、「亡き友の分まで強く生きる」と誓った。

宮城・石巻 宮城県石巻市の式典会場には、津波で児童らが死亡した行方不明になった市立大川小学校の卒業生が約60人、東北学院大2年の永沼さん(20)もその一人。2017年3月11日、親類で出席していたため、

### 大川小 亡き友の分も

当時6年「強く生きる」

中学校の同級生らと記念撮影をする永沼さん(中央) (14日午後、宮城県石巻市) →撮影:西村人雄

白毛で被災、巧みの高巴、逃げ、家族を助けたが、その計8人、工学部でエンジニアを目指して学んで

「みんなが生きていたら、どんな大人になっていたんだろう」と思いをはせながら、「逆境に負けない強さを身につけ、みんなの分も、悔いのないように生きていきたい」と語っています。

また、西日本豪雨で甚大な被害が出た岡山県倉敷市や愛媛県大洲市の成人式でも、復興への決意やボランティアの方への感謝の声相次ぎ、力強さを感じます。

皆さんも数年後に成人式を控えた今、自分なりの大人への道を、焦らず、着実に歩んでほしいと願っています。

◀読売新聞(2019.1.14)より